三月宝生会　月浪能

三月十三日（日）
午後一時始
正午開場
於　宝生能楽堂

13:00

仕舞
笹之段　今井泰行
老松　登坂武雄
千手　大友順

小倉伸二郎
辰巳満次郎
野月聡
金森隆晋

13:25

朝長

トモ　高橋憲正
ツレ　山内崇生
シテ　朝倉俊樹

ワキ　殿田謙吉
ワキツレ　則久英志
〃　御厨誠吾
間　大藏基誠

後見　宝生和英　水上優　佐野弘宜

大鼓　柿原光博
小鼓　曽和正博
太鼓　小寺佐七
笛　槻宅聡

地謡　當山淳司　藪克徳　東川尚史　和久荘太郎　辰巳満次郎　武田孝史　金井雄資　小倉健太郎

15:20

骨皮

大藏吉次郎

大藏教義
大藏康誠
榎本元
上田圭輔

15:50

羽衣

シテ　高橋亘
盤渉

ワキ　工藤和哉
ワキツレ　高井松男
〃　小林克都

後見　小林与志郎　澤田宏司　金森良充

大鼓　大倉正之助
小鼓　住駒匡彦

太鼓　徳田宗久
笛　一噌幸弘

地謡　内藤飛能　佐野玄宜　亀井雄二　小林晋也　藤井雅之　三川淳雄　中村孝　佐野太郎　登

〈休憩十五分〉

終演予定十七時頃

演目の解説

能「朝長」（ともなが）

源義朝の次男、朝長は美濃の国青墓平治の乱で深手を負い、自害した果て、家来の長者に介錯を頼み、自害する。

能「羽衣」（はごろも）

駿河国三保の松原の漁師白龍は、長閑な春の日、松の枝に美しい衣を見つけ、持ち帰ろうとする。すると美しい女が現れ、衣を返してほしいと言う。白龍は、天女の舞を見たいと言い、衣を返さない。天女は、舞を見せてくれたら返すと言う。白龍は、天女に頑なに帰りを求める。天女は、白龍の心の美しさに打たれ、天の羽衣を返す。天女は、月の都の人々を呼び、月の都の舞を舞う。天女は、月の都の人々に、地上の人々に、月の都の舞を伝えるために、天に帰っていく。

チケット料金（税込）

S席　8,800円
A席　7,700円
B席　6,600円
C席　5,500円
D（自由）席　3,300円

ご購入は、各能楽師
または
オンラインチケット
・宝生会事務局まで

文化庁文化芸術振興費補助金
（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会